

【解説】

この回では、青年期の精神的成長を扱う。特に難しいのは「自我の目覚め」。実体験のない生徒が多いと思われるので、知識としての理解にとどまらざるを得ないゆえ、体験がないことが劣等感につながらないように配慮することが必要。「10年くらいのうちには分かる時がくるだろう」という程度でとどめる。ただし「自我の目覚め」は次のアイデンティティ確立へのきっかけとなるので、言葉の暗記になってしまうとしても、しっかり押さえておきたい。

○**青年期** 12歳～22歳ころ。子供から大人への変化の時期。思春期。

○**ルソー** 多才な人。「結んで開いて」の作曲者。ウソー！じゃなくてルソー！

○**第二の誕生** 『エミール』の中にある。「第二」が頭につくのが3つあるので注意。

○**人格的交わり** 「他者を発見」することによって可能になる。

○**マージナル・マン** マージン=余白

○**焦燥感** 自分が正しく理解されて（受け入れられて）いないことへのいらだち（シュブランガー）

○**疾風怒濤** 理性で抑えることができないほどの感情の高まりや揺れ動きのこと

○**自我の目覚め** 経験者しか分からないが、能力の有無とは無関係なので、いま分からなくても卑下することはない。幼児における「自我の出現」とは異なる。シュブランガーは、アイデンティティの確立に向かう兆候として重要視。文学の題材にもなる。

○**かけがえのない** =他者と取り替えのできない

○**OG・H・ミード** =ジョージ・ハーバード・ミード。

○**社会的経験などの過程でコミュニケーションを通じて** 主我と客我との相互作用の結果

○**一般化** 数学で言う「一般項 xy 」のように、具体的な「〇〇さん」ではなく、見知らぬ「誰であっても」対応する準備が来ている、という趣旨。

○**責任** =Responsibility=応答可能性。

参考になる歌 「世界に一つだけの花」、「手のひらを太陽に」

他の★自分の周囲の人間関係は「人格的關係」になっているだろうか？

.....(例)ライバル意識や「先輩後輩の上下関係」意識が強く、人格的關係になっていない.....